



1月9日



1月16日



1月23日



1月30日



2月6日



2月13日



2月22日 (2/18~22 調査実施)



2月27日



3月5日



3月12日



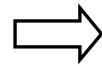
3月19日



3月26日



4月2日



4月9日



4月16日



4月23日 (4/20~26 調査実施)



4月30日



5月7日



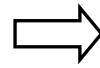
5月14日



5月21日



5月28日



6月4日



6月11日



6月18日



6月25日



7月2日



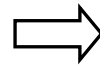
7月9日



7月16日 (7/14~17 調査実施)



7月23日



7月30日



8月6日



8月13日



8月20日



8月27日



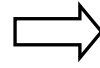
9月3日



9月10日



9月17日



9月24日



10月1日



10月8日



10月15日

(ノリ漁業者による浜清掃の翌日)



10月22日



10月29日

定点写真（南側方向）



9月19日



9月26日



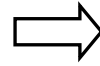
10月3日



10月10日



10月17日（10/14～19 調査実施）



10月24日



10月31日



11月7日



11月14日



11月21日



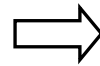
11月28日



12月5日 (12/3~7 調査実施)



12月12日



12月19日



12月28日



2008年1月2日



1月9日



1月16日



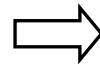
1月23日



1月30日



2月6日



2月13日



2月22日 (2/18~22 調査実施)



2月27日



3月5日



3月12日



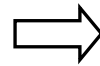
3月19日



3月26日



4月2日



4月9日



4月16日



4月23日 (4/20~26 調査実施)



4月30日



5月7日



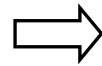
5月14日



5月21日



5月28日



6月4日



6月11日



6月18日



6月25日



7月2日



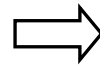
7月9日



7月16日 (7/14~17 調査実施)



7月23日



7月30日



8月6日



8月13日



8月20日



8月27日



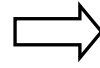
9月3日



9月10日



9月17日



9月24日



10月1日



10月8日



10月15日

(ノリ漁業者による浜清掃の翌日)



10月22日



10月29日

5.3 伊勢湾における漂流シミュレーション

5.3.1 目的

漂着ゴミの削減施策立案のための基礎的な知見として、ゴミが漂流・漂着に至るまでの過程を把握することを目的として調査を実施した。

5.3.2 調査内容

(1) 冬季シミュレーションの内容（平成 19 年度）

a. モデルの概要

解析に供したモデルは 3 次元レベルモデルで、使用された基礎方程式は以下の 4 つである。これらの式は、デカルト座標系 (x, y, z) において回転系の非圧縮粘性流体を仮定し、静水圧近似およびブシネスク近似(密度 ρ の空間変化の影響を圧力勾配項でのみ考える)を仮定した。

- ① x, y 方向運動方程式
- ② 連続式
- ③ 水温拡散方程式
- ④ 塩分拡散方程式

これらの方程式を陽に解くことでそれぞれの物理量を計算した。また、本モデル内では海面風応力を求めるために、風向・風速時系列データからの海面風応力のバルク式を用いた。以上の方程式を差分化して、数値シミュレーションを行なう。

b. 解析領域と格子分割

解析領域は伊勢湾と三河湾全体を含む範囲とした。水平方向の解像度は 300m とし、水平方向の格子数は $224 \times 208 = 46592$ 個である。鉛直方向には 3m 間隔とし、最大 10 層に分割した。図 5.3-1 に海底地形を示す。この海底地形データを作成するために使用したソースデータは、日本海洋データセンター（Japan Oceanographic Data Center : JODC）の Web サイトからダウンロードした J-EGG500 である。また、海岸線の再現には海上保安庁が刊行する海図を使用した。作成されたデータの最小水深は 2m と設定した。